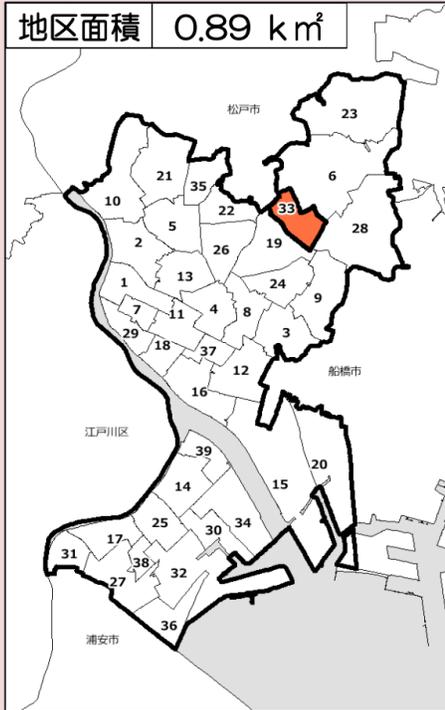


33 大野小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

◆位置

大野小学校区は市の北東部に位置し、地区の東側に大柏川が面しています。また、地区の北西側に松戸市が隣接しています。

◆地形・土地利用

地形は、台地及び氾濫平野で構成され、高低差があります。地区内は、第一種低層住居専用地域等の住宅地となっており、戸建て住宅等が建ち並んでいます。また、地区内の一部地域は風致地区に指定されています。地区の北西側には農地があり、みどり豊かな環境も有しています。

◆都市基盤

地区内の南側の一部は、土地区画整理事業により整備されています。地区の南側には県道180号線が通っています。また、地区内にはJR市川大野駅、JR本八幡駅行きの京成バスや市川市コミュニティバスが通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

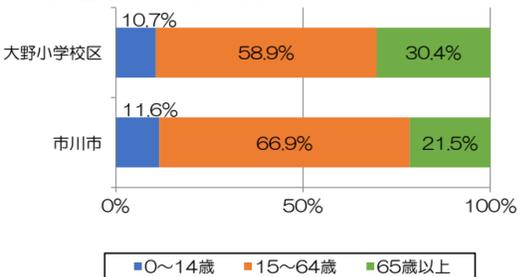
年齢別割合

	大野小学校区	市川市	割合※
人口総数	10,887人	492,564人	2.2%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 12,630人

平均値：39地区の平均値を示しています。



◆建物

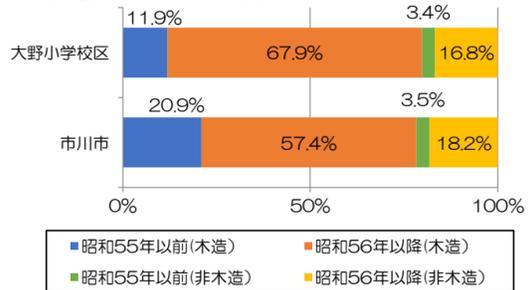
構造別割合

	大野小学校区	市川市	割合※
建物総数	2,268棟	107,267棟	2.1%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

平均値 2,750棟

平均値：39地区の平均値を示しています。



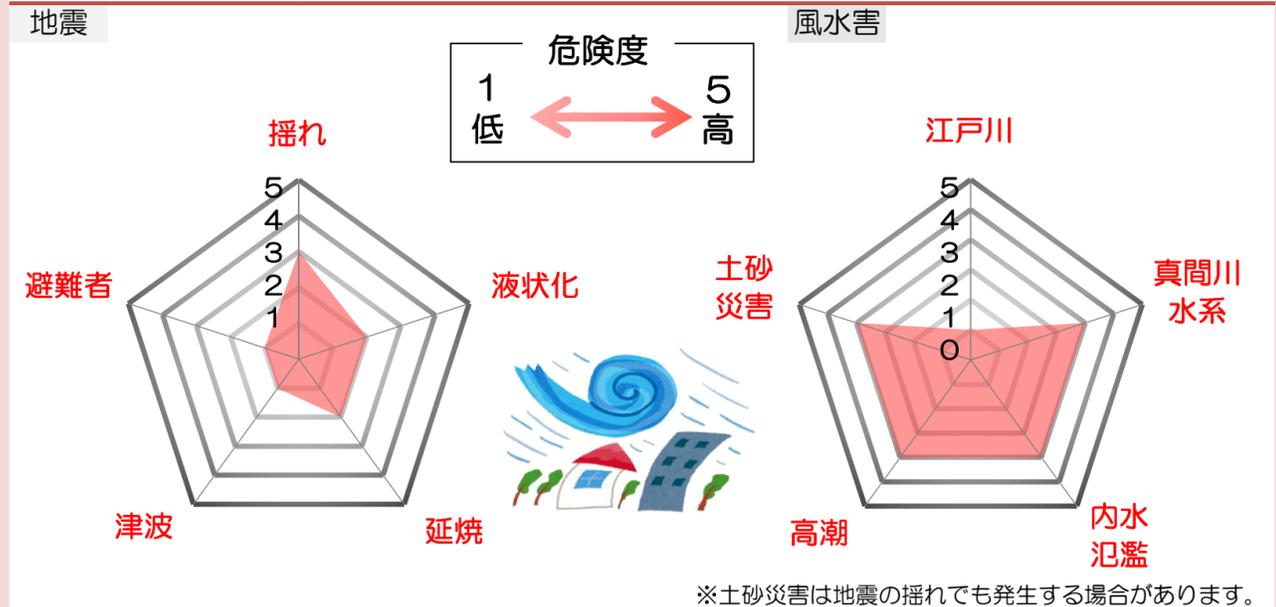
地区の人口は、全地区の平均人口より少ないです。市全体と比較すると65歳以上の割合が高く、高齢の世代が多い地区となっています。

地区の建物は平均よりやや少ないです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、木造建物がやや多い地区となっています。

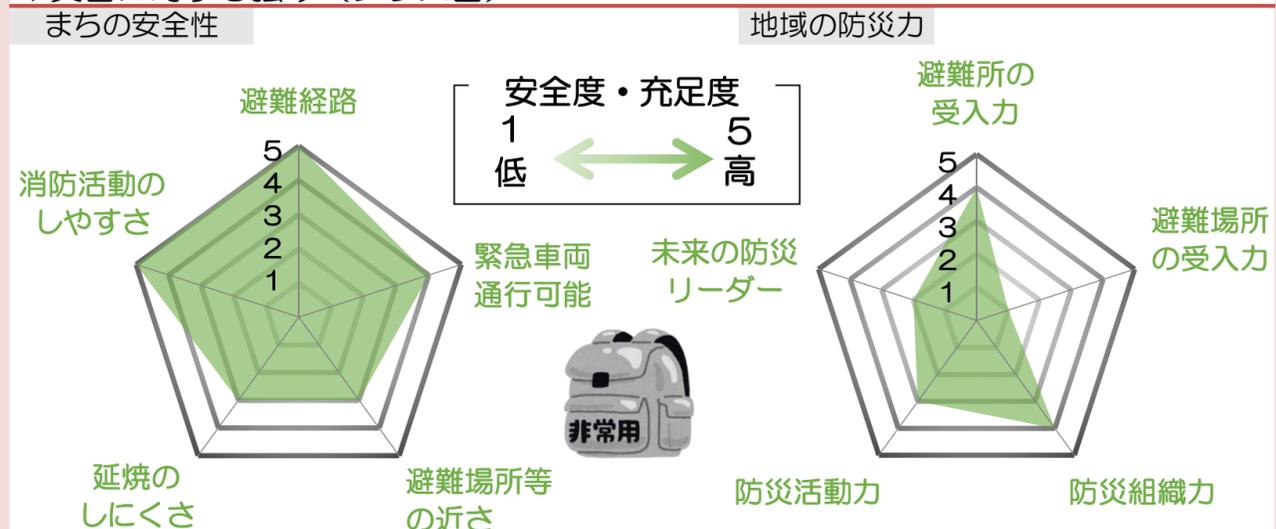
(4) 災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現状データを用いて相対的に評価しています。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

大野小学校区は、地震災害については、最大震度6強の揺れが予測され、揺れによる危険性が高い傾向にあります。風水害については、真間川から分岐する大柏川に面していることから、低い土地は真間川水系の氾濫による浸水の危険性があり、地区内に土砂災害警戒区域等があることから土砂災害による危険性もあります。

一方で、まちの安全性については、避難経路や緊急車両通行可能道路の充足度、消防活動のしやすさは高い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難所の受入力、防災組織力は高い傾向にあるものの、避難場所の受入力、未来の防災リーダーは低い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
大野小学校	-		
大野公民館	-		
からりす	○		

◆避難場所

名称
大野小学校
大野公民館

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設(公設)	大野保育園		医療救護所	なし
	大野保育園分園		関連施設	なし



(6) 被害想定結果(地震・風水害)

◆地震災害(被害を受ける割合)

想定項目	大野小学校区	市川市全体
建物被害		
全壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	2.1%	4.8%
半壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	8.4%	11.8%
焼失棟数の割合	3.0%	10.2%
浸水棟数(津波)の割合	0.0%	1.1%
人的被害		
死者の割合	0.0%	0.1%
負傷者の割合	0.2%	0.4%
避難者の割合	8.4%	20.0%



◆風水害(被害を受ける割合)

想定項目	大野小学校区	市川市全体
建物被害		
浸水棟数(江戸川)の割合	0.0%	52.9%
浸水棟数(真間川)の割合	54.8%	47.7%
浸水棟数(内水)の割合	58.4%	57.9%
浸水棟数(高潮)の割合	17.5%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準の建物割合が高く、最大震度も6弱寄りの6強であるため、建物被害は少ない傾向となっています。また、人的被害についても、市全体より少なくなっています。

一方で、風水害については、真間川から分岐する大柏川に面していることから、低地部では真間川水系の氾濫による影響が大きく、内水氾濫による影響も受け、市全体と比較して真間川水系の氾濫、内水氾濫による浸水棟数は多くなっています。

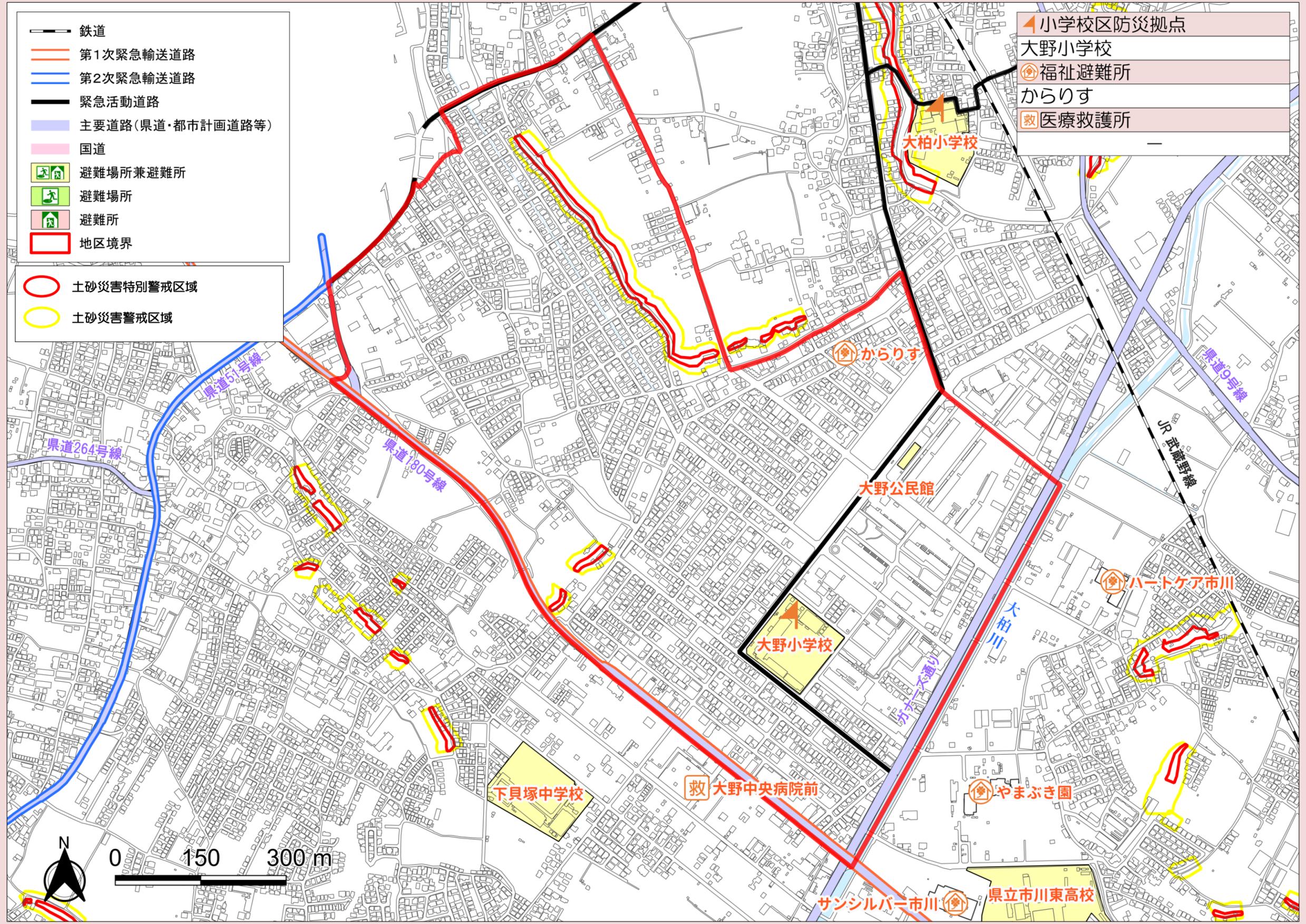
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区内で広く、震度6強の揺れが予測され、土砂災害警戒区域等があることから、耐震対策や土砂災害発生時の避難対策が必要です。
風水害	南側に大柏川が流れていることから、低い土地は河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、また、高潮による浸水の恐れがあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。また、土砂災害警戒区域等があることから、土砂災害発生に備えた避難対策が重要です。
まちの安全性	地区のまちの安全性に関する評価項目は総じて高い傾向を示していますが、避難場所等へ徒歩10分程度以上かかる地域がやや多いことから、あらかじめ避難経路について検討しておく必要があります。また、消防水利の充足がやや低く、消火までにやや時間を要することが考えられるため、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区には、避難場所の充足度が低いことから、他の避難場所や広域避難場所の確認が重要です。また、未来の防災リーダーとなる人材育成を進めていくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

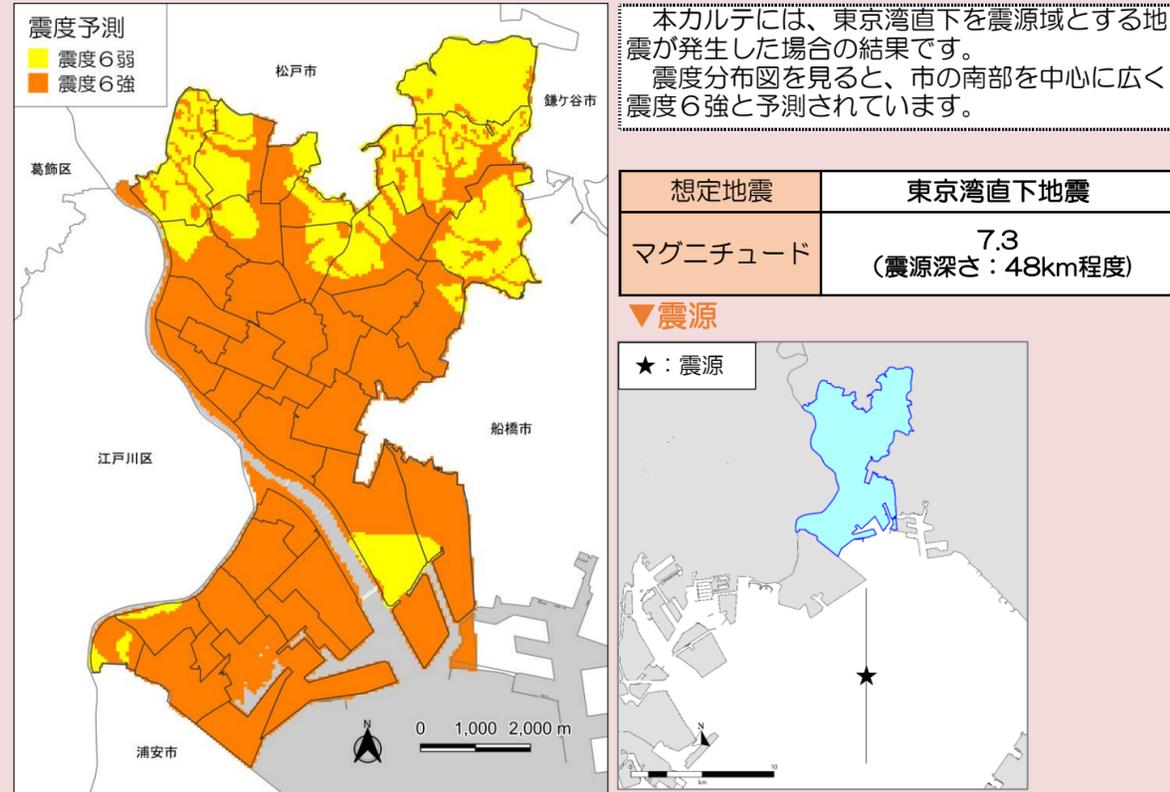
項目	取組の方向性
地域の取組	災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。市が開催する防災セミナーやイベント等に参加する等、地域ぐるみで防災リーダー等を育成していくことが重要です。地区内の避難場所の受入力が高いため、近隣地区も含め避難場所を確認し、あらかじめ地区の中で避難する場所の情報共有を行うことが重要です。土砂災害の危険性も考えられることから、あらかじめ地域間で危険箇所等を共有しておくことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、家具の固定、ライフラインの途絶に備えあらかじめ飲料水等の備蓄をしておくなど自宅(家庭)の防災性を向上させることが効果的です。一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

(9) 防災マップ

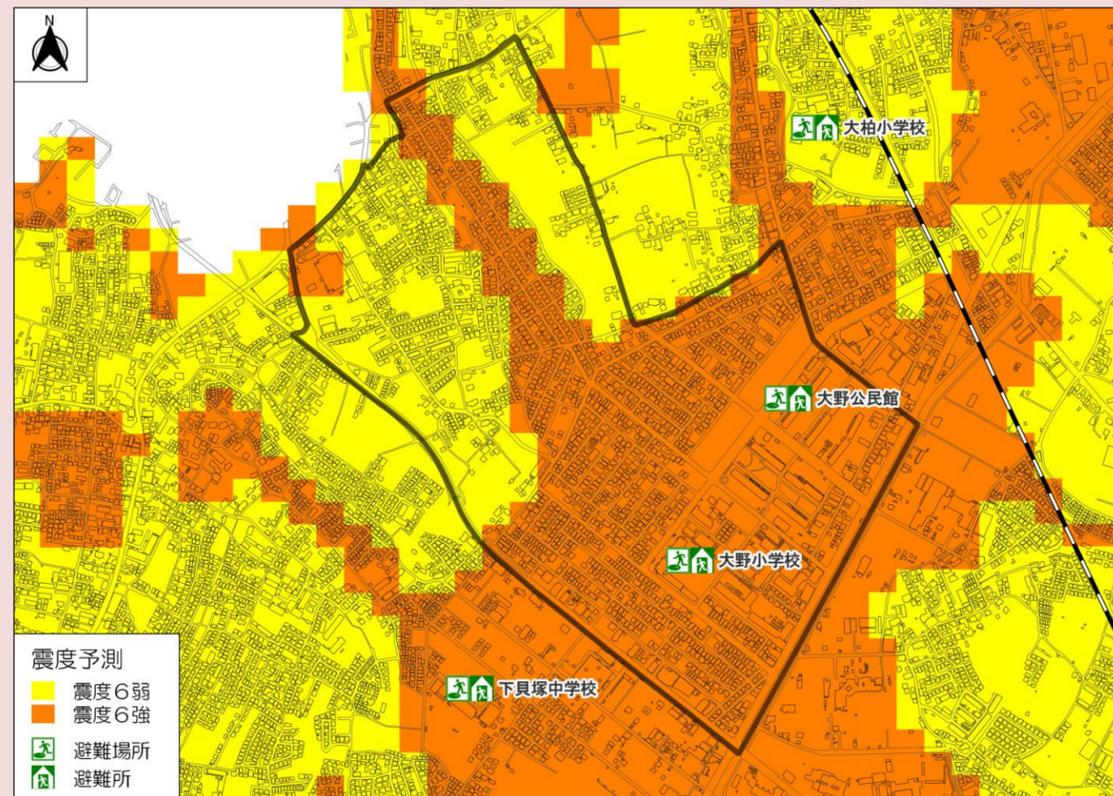


(10) 基礎資料

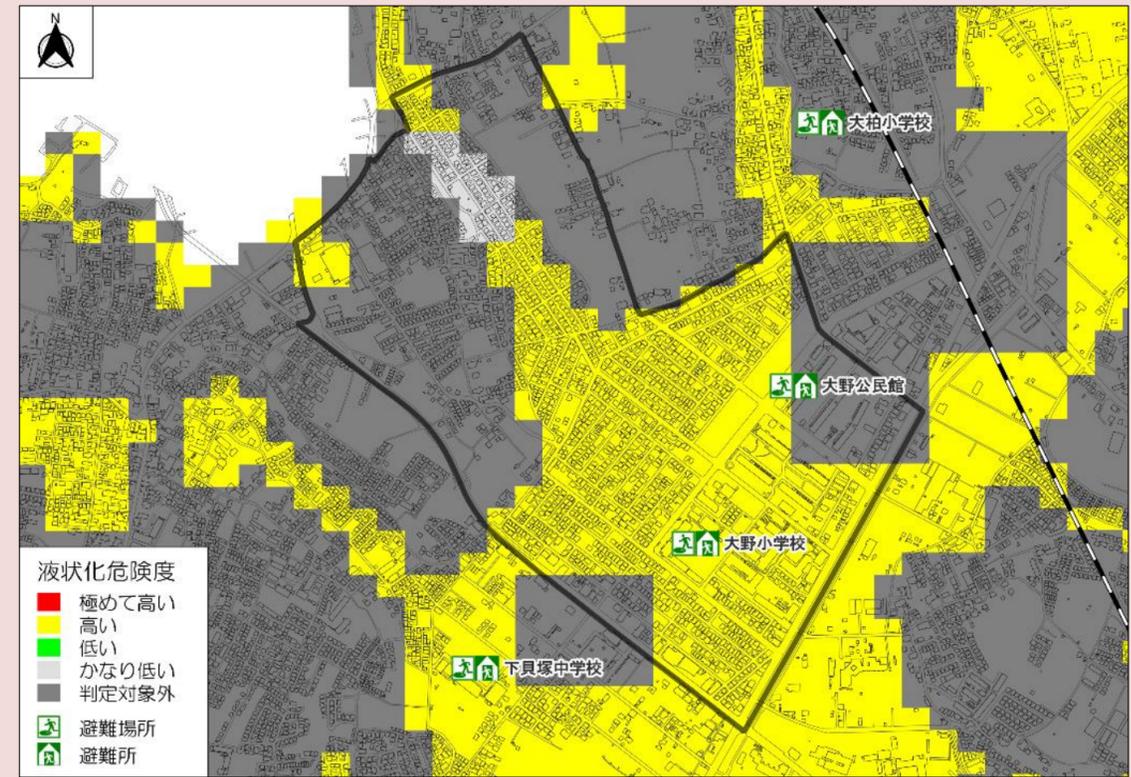
①市全域の震度分布図



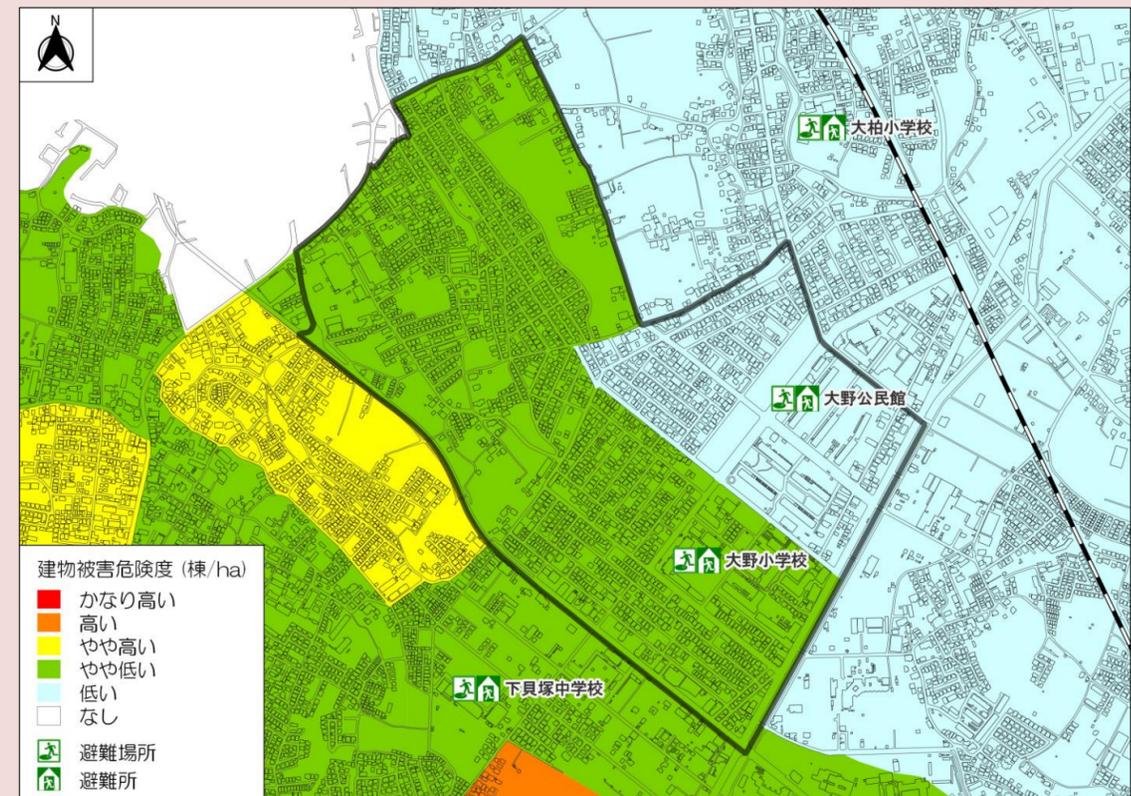
②震度分布図



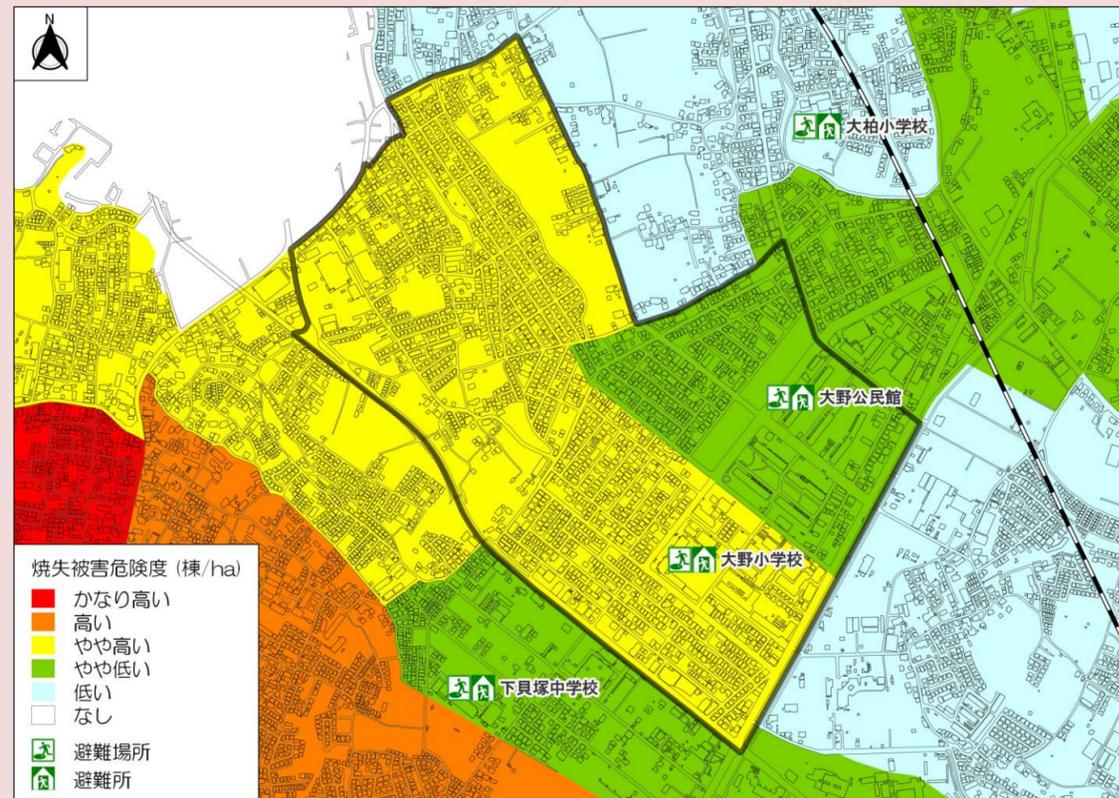
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）

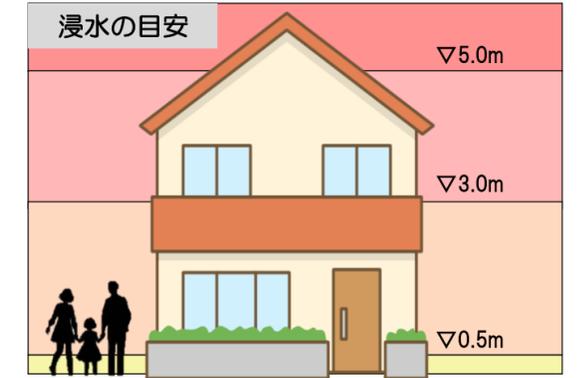


⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

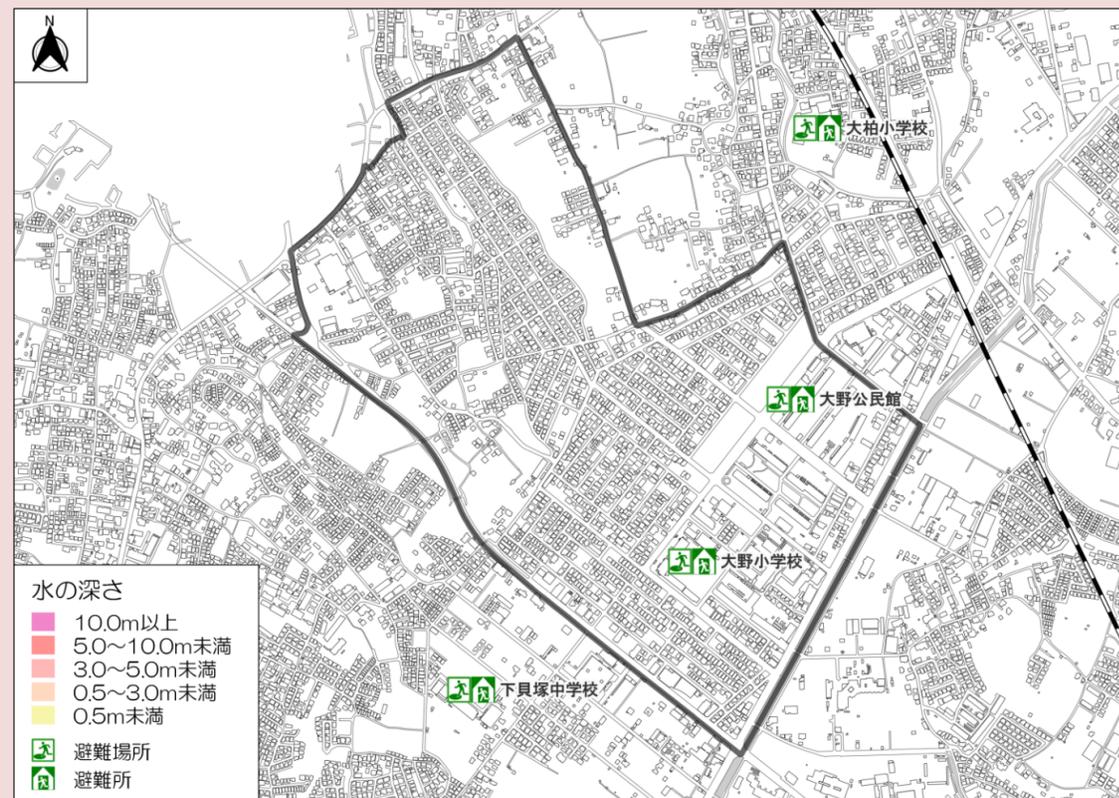
災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

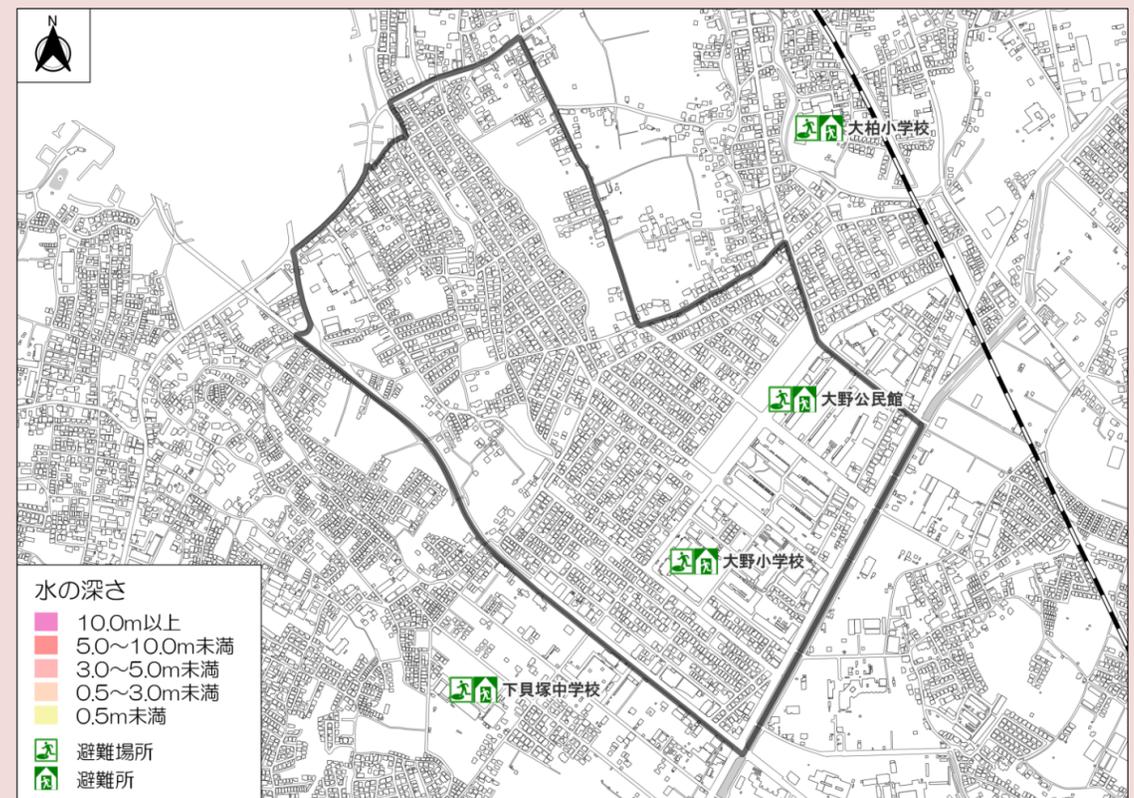
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

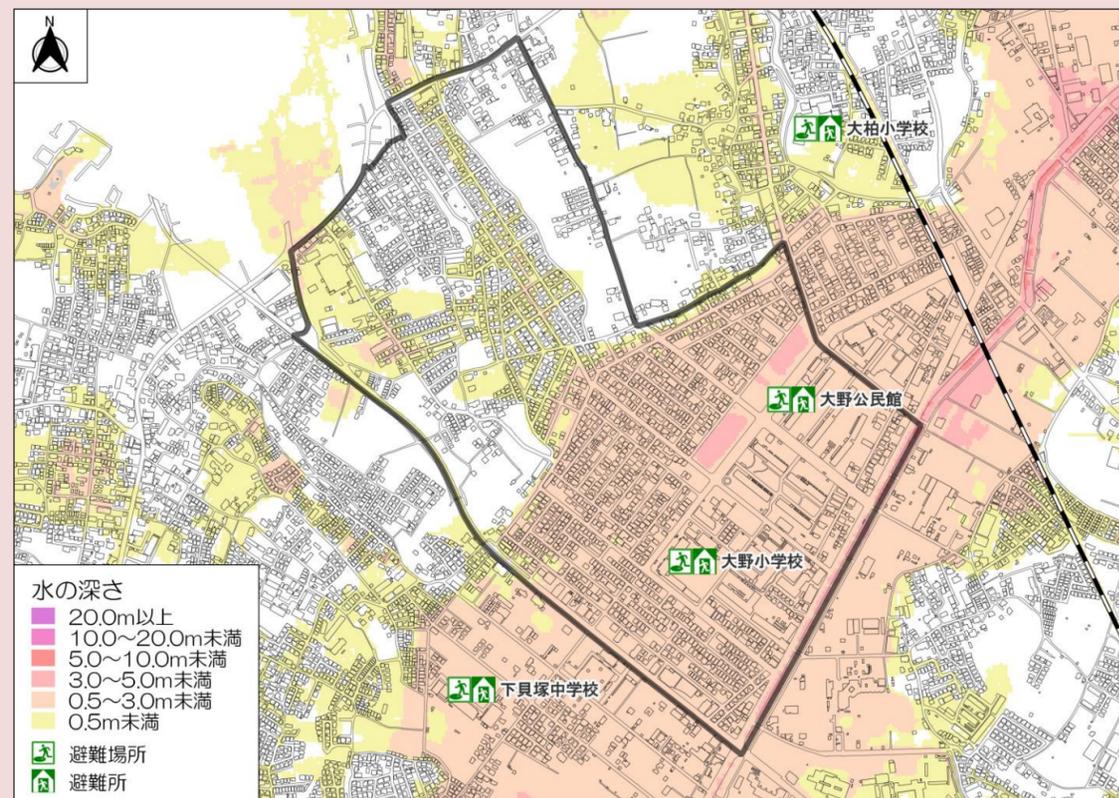
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



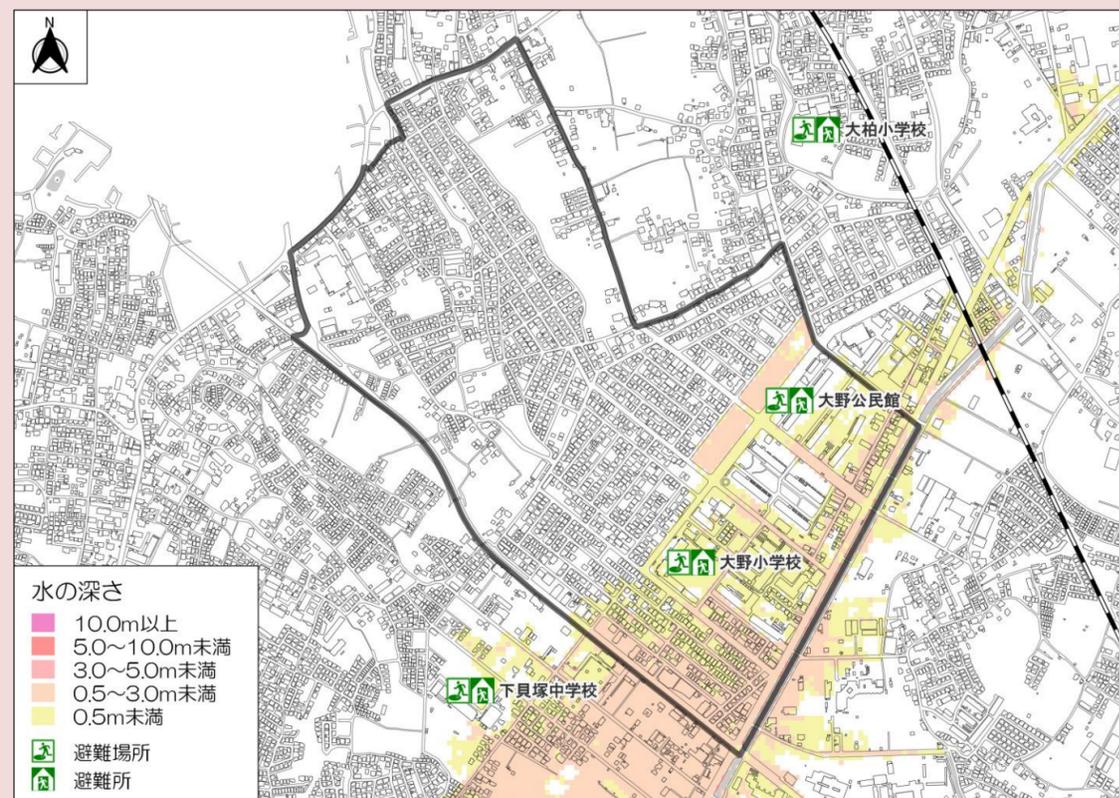
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



令和元年：千葉県(真間川水系)、令和2年：市川市(内水氾濫)、令和4年：千葉県(小規模河川)

⑩高潮



平成30年11月：千葉県

◆メモ

